

平成 21 年 6 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520129

研究課題名（和文） 横型奈良絵本の国文学的研究

研究課題名（英文） The study of Japanese literature about Yokogata Naraehon

研究代表者

石川 透（ISHIKAWA TORU）

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：30211725

研究成果の概要：

横型奈良絵本については、これまで、国文学はもちろん、美術史・日本史といった分野からも、ほとんどまとまった研究がなされていなかったが、本研究では、各地に伝わる横型奈良絵本の調査撮影を行った上で、横型奈良絵本のタイプによる分類や、詞書き筆者の確定、絵師の推定を行った。また、国文学上重要な作品であるものは、その紹介や翻刻・影印を学会誌等に発表を行った。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,500,000	0	1,500,000
2007 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	600,000	4,100,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：奈良絵本、絵巻、横型、国文学、美術史、江戸前期、室町物語、調査撮影

1. 研究開始当初の背景

横型奈良絵本については、これまで、国文学はもちろん、美術史・日本史といった分野からも、ほとんどまとまった研究がなされていない。今日までの奈良絵本の研究は、主に室町物語研究の側から、一つの作品だけという単発的な研究しかなされてこなかった。しかも、その奈良絵本の中でも、特大縦型の豪華な奈良絵本の研究紹介に留められており、私自身の奈良絵本の研究も、絵巻や縦型の奈

良絵本の研究を行ったに過ぎない。しかし、私の調査によれば、奈良絵本の中で圧倒的に多く製作され、今日最も多く残されているのは、横型の奈良絵本である。しかも、これらは、前代の絵巻や奈良絵本のたんなる模写ではなく、内容的にも個性的な奈ものが目立つのである。ところが、横型奈良絵本の研究が十分になされていないことから、日本全国の図書館・美術館・博物館等がそれらを展示するにしても、その制作の時代や内容についての説明が、相当な割合で間違ってしまう

るのである。もちろん、それらの記述を受け継いだ諸分野の研究者も、研究の基礎的なところでの過ちを犯してしまい、論文として成り立たないものも多く存在している。

2. 研究の目的

このような現状のなかで、横型の奈良絵本の基礎的な研究を国文学の立場から目指したのが、本研究である。

3. 研究の方法

本研究では、3年の歳月をかけ、日本全国に実在する横型奈良絵本を調査し、その所在地を明らかにし、許可が下りたものについては、その全文を撮影することを行った。当然のことであるが、調査しただけでは今後の研究にはあまり役に立たない。これまで分かっているものだけでも、千点近くが、全国各地の図書館・博物館等に点在しているのだから、それらを効率よく調査し、全文を映像として保存し、その上で、それぞれの横型奈良絵本についての比較研究を行ったのである。現在は、デジタルカメラやパソコンの機能が向上し、市販のものでも、十分に横型奈良絵本の撮影や画像の保存が可能になってきた。したがって、調査撮影した映像は、デジタル化して保存をし、それをもとにして、研究室において、本文や挿絵の比較を行う。このような比較をすることによって、横型奈良絵本の製作の年代や筆者について考察を行った。筆者や絵師の具体的な名前は簡単にはわからないが、この研究により、どれとどれが同じ筆跡であるとか、同じ画家によるものであるとかいう、基礎的な分類が明らかにできたのである。同時に、研究室において熟読することによって、横型奈良絵本の内容が明らかになる。横型奈良絵本は、御伽草子や幸若舞曲といった、国文学上の重要な作品が記されている。それらの本文比較を机上で行い、国文学研究に役立てた。横型奈良絵本は、筆者や絵師が、ほとんど署名しなかったため、制作に当たった筆者や絵師が不明であるものが多い。それどころか、このような事情により、制作の年代も明らかになることはまれである。図書館・美術館・博物館等の解説が誤りを犯すのも、これまでの研究状況では致し方のないことなのである。この研究によって、これまでの個々の印象による解説を脱して、横型奈良絵本そのものについての、総合的な、学術的な評価の第一歩ができるようになった。また、これらの研究を元に、横型奈良絵本を含む奈良絵本・絵巻の所在目録を作成すれば、多くのさまざまな分野の研究者に

とって、便宜となることは間違いない。特に、国文学の側からは、これまで研究されていなかった物語や、同じ物語でも内容が異なる異本の存在が明らかになり、文学作品としての研究対象が広がるとともに、国文学史の見直しに至る可能性も出てくるのである。

横型奈良絵本の国内外の研究状況は、現在、日本国内では、千点近くが確認され、一つ一つの作品研究は順次進みつつある。関連分野の日本における研究としては、主に縦型の奈良絵本と絵巻について、私自身が『奈良絵本・絵巻の生成』（三弥井書店、1-532頁、平成15年）を刊行している。現段階での奈良絵本・絵巻研究では、唯一の本格的な研究書である。しかし、その著書の中では、絵巻や縦型奈良絵本についての記述が多くを占め、横型奈良絵本については、ほとんど触れられていない。私のその他の著書や論文においても、同様である。日本の他の研究者についても、いまだに横型奈良絵本の総合的な研究を目指した論文や著作は出ていない。それを目指した研究をしているという研究者の情報も入っていない。

日本国内の横型奈良絵本の研究がこの状態であるから、海外における横型奈良絵本の研究は推して知るべしである。しかしながら、昭和53年に海外の研究者が中心になって開催された、奈良絵本国際研究会議において、海外にも奈良絵本が多数所蔵されていることが報告されている。その後、単発的に、海外所蔵の奈良絵本の研究がなされることはあったが、それは日本の研究者によるものであって、海外の日本文学研究者が本格的に横型奈良絵本の研究をしているという情報もない。ただし、海外にも横型奈良絵本が所蔵されているということは、海外の研究者や、少なくとも、それを所蔵する機関の学芸員等のスタッフは、横型奈良絵本に興味を抱いている。簡単な解説書を書いている方もいる。もちろん、総合的な研究をなさっているわけではないが、今後の研究は、これらの海外所蔵機関の学芸員等のスタッフと連絡を密にする必要がある。

奈良絵本のうち、横型奈良絵本は、最近では日本でもその存在が知られるようになり、図書館・美術館・博物館等の展示によく使われている。見た目にも美しいこともあって、いわば、それぞれ所蔵する機関の看板の役割を担わされているのであるが、まとまった研究自体が、ほとんどなされていないのが実情である。また、この数年、図書館・美術館・博物館がインターネットによる所蔵品展示をするようになり、奈良絵本や絵巻類を所蔵品の目玉として公開している。しかし、研究が進んでいないことから、解説を読むと、誤解や間違いがきわめて多いのである。日本の文化を代表するものとして、インターネットで世

界的に公開しながら、説明が間違っているのはなはだ困ることである。

外国で奈良絵本を所蔵する機関も、やはり、見た目の美しさから、公にすることを希望しているのであるが、学術的にどういうものがわからず、できれば日本の研究者に調査を依頼したいとの打診は、複数の機関から受けており、そのうちのいくつかは、調査が実現した。本研究は、まず、日本国内での研究を目指すものであるが、海外に所蔵される横型奈良絵本の研究をも目指し、奈良絵本の研究を一段と進め、海外の奈良絵本所蔵機関の要求も叶えようとするものである。これは、日本の文化をより正しく世界に公開することにつながる。

奈良絵本の本格的な研究自体が、おそらく、私が科学研究費補助金を平成10年度から13年度の4年間いただいで行った「奈良絵本の基礎的研究」、並びに平成15年度から17年度の3年間いただいで行った「江戸前期製作絵巻の国文学的研究」が最初ではないかと思われるが、その研究により、縦型の奈良絵本、及び、絵巻物の学術調査はかなり進んでいる。それらの研究により、仮名草子作家として著名な浅井了意が縦型奈良絵本や絵巻の制作に当たっていたことが明らかになる等という発見も多くあった。

ところが、横型奈良絵本の研究がほとんどなされていないこと、日本においては、次々と新たな奈良絵本が報告されていること、さらには、海外に流出した奈良絵本が存在していることが明らかになってきたこと等から、それらの学術調査と研究を進めたい、と考えている。

4. 研究成果

こうした中で、本研究では、横型奈良絵本の『住吉物語』に、本文同筆の作品が存在すること、また、『観音の本地』と『蛤の草紙』にも、本文同筆の作品が存在すること、等が明らかになった。

また、制作年代については、料紙を斐紙とする横型奈良絵本が古くに存在し、その後に、料紙を間似合紙とする横型奈良絵本が制作されていたことが、ほぼ明らかとなった。そして、いつ作られたかは問題が残るが、普通の横型奈良絵本ではなく、より柘形に近い作品も存在している。

さらには、横型奈良絵本の挿絵部分を切り取った断簡の絵が大量に存在しており、作品の判明するものもあるが、簡単には判明しない断簡も、相当数存在することが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

1. 石川透 「フランス所在の奈良絵本・絵巻」『アジア遊学』第109号、2008年、44-51頁、査読無

2. 石川透 「『九想詩絵巻』をめぐって」『説話文学研究』第43号、2007年、112-113頁、査読有

3. 石川透 「奈良絵本・絵巻の諸問題」『藝文研究』第91号、2006年、110-124頁、査読無

〔学会発表〕(計 3件)

1. 石川透 「奈良絵本・絵巻におけるタブー」ストラスブール大学シンポジウム、2009年3月20日、フランス・ストラスブール大学

2. 石川透 「奈良絵本・絵巻のデジタル化」日本大学国文学会、2007年7月14日、日本大学

3. 石川透 「奈良絵本・絵巻の諸問題」慶應義塾大学国文学研究会、2006年7月5日、慶應義塾大学

〔図書〕(計 7件)

1. 石川透 『猿源氏草紙』、三弥井書店、2009年、90頁

2. 石川透 『判官都話』、三弥井書店、2008年、264頁

3. 石川透 『広がる奈良絵本・絵巻』、三弥井書店、2008年、280頁

4. 石川透 『小式部』、三弥井書店、2008年、78頁

5. 石川透 『虫の歌合』、三弥井書店、2007年、34頁

6. 石川透 『物くさ太郎』、三弥井書店、2007年、72頁

7. 石川透 『魅力の奈良絵本・絵巻』、三弥井書店、2006年、258頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

石川 透 (ISHIKAWA TORU)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号 : 30211725

(2)研究分担者

(3)連携研究者